B B
432

改正 南都名所記

繪入

大和國名所舊跡古事集

春日社 恵比須社 尊神附

東大寺 手向山八幡宮 社寺寺附

二月堂 観世音 開帳附

大佛殿 建立 像記附

興福寺 伽藍 造立附

文庫6
1882

奈良八景

東京師範学校

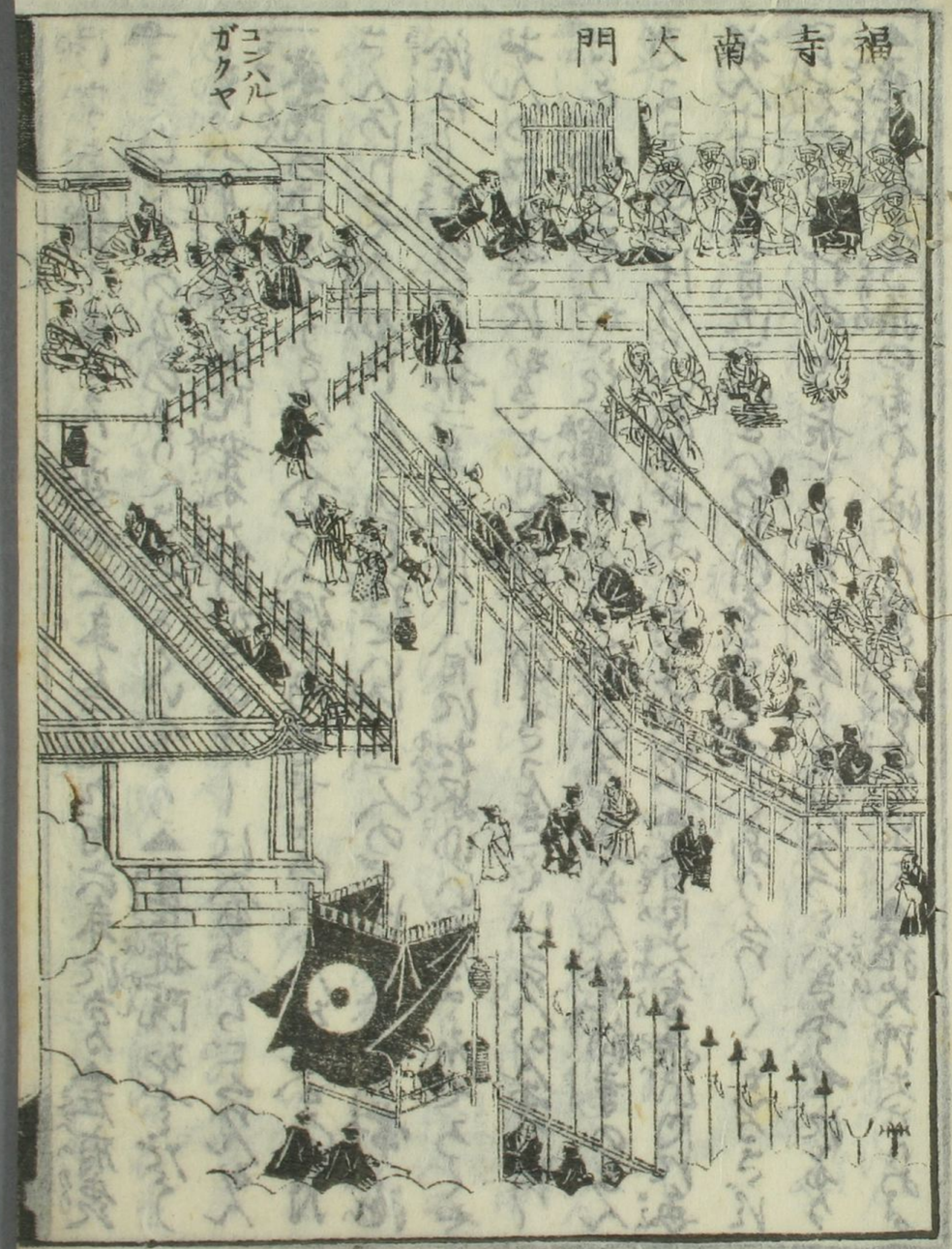
▲南都猿沢の池。春日明神のかがみの池なり。天の帝よりこのうつくしき神のかがみをうつしとゞめ給ふ。さるさわ山池ゝ〻せ山池ゝ〻ひさしくなる。天皇いとあんしみあらばゝめ山をうりて清水をうりて

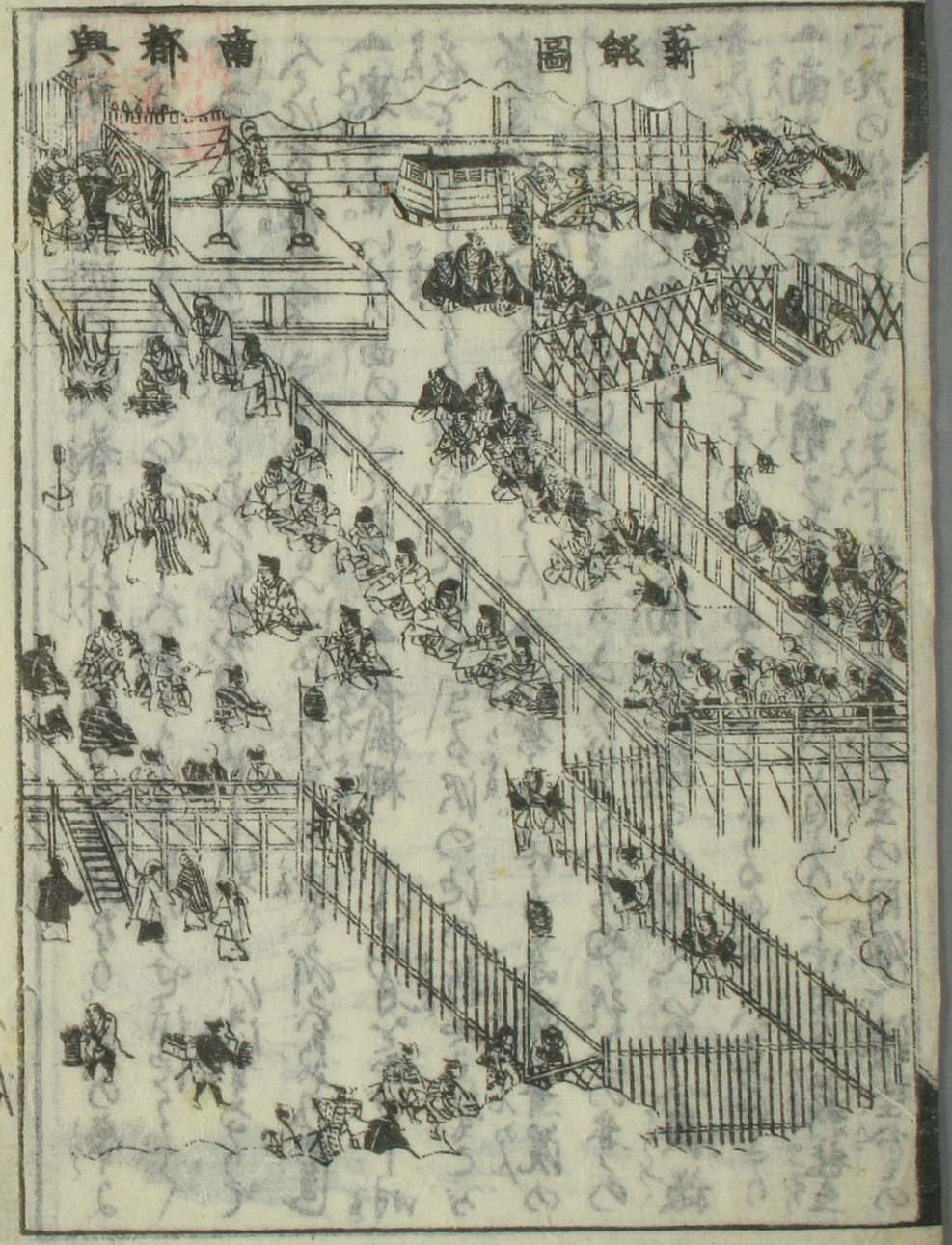
人々に苔の緑せあり。さる沢の池もいつくしきをとがあるべきひあまし

▲采女宮。いけの西のうらにあり。▲衣掛柳。うねめ宮とおぼゆ。一時衣をうゝ〻掛なり。池の東にあり。さる沢の池の柳やうなるこゞ

緑ぐされるこのかゝみ。ちるさくらん▲清澄山池。ゝ東成身院の

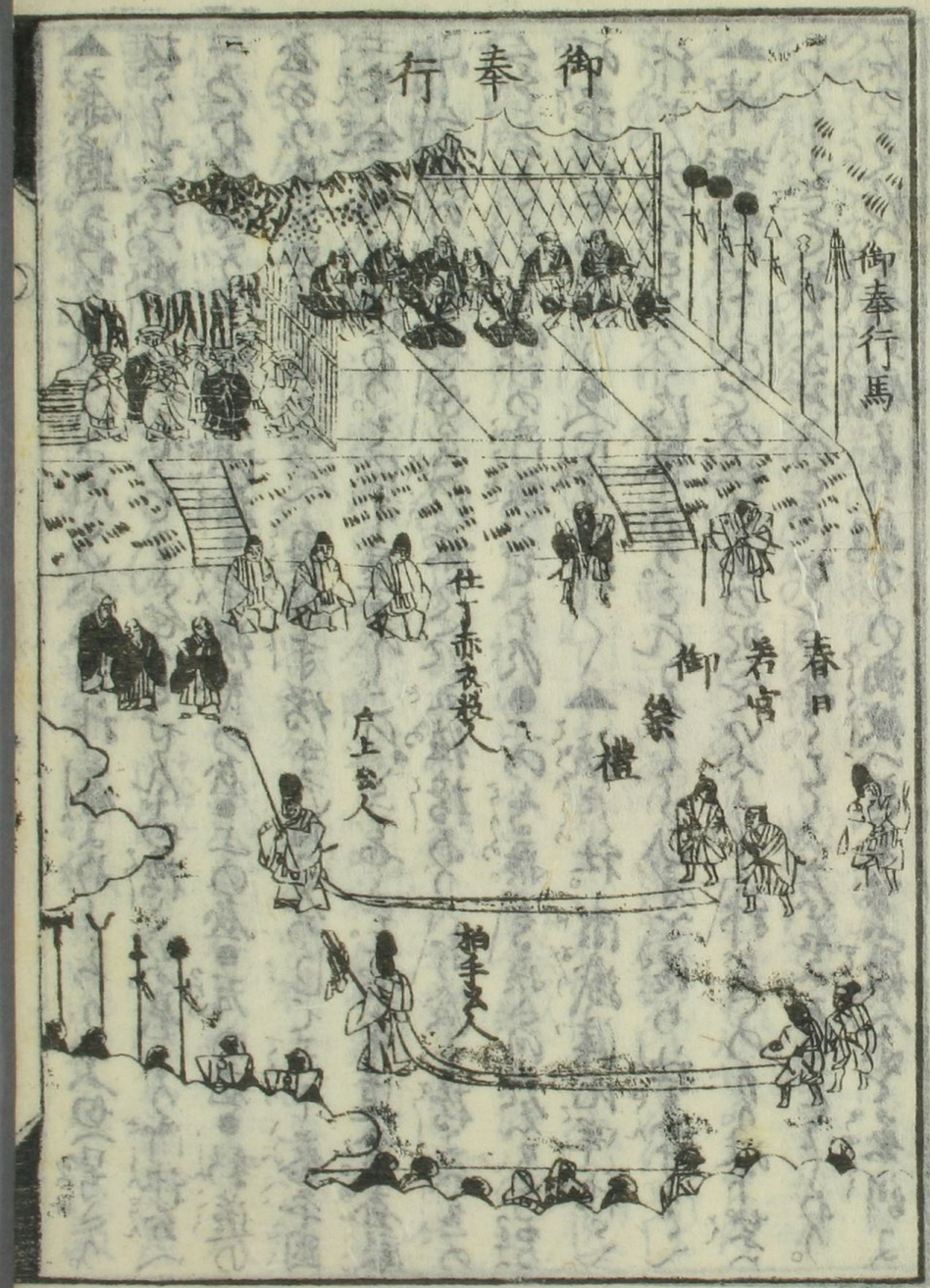
うろ松のせうる山。ゝ。ゝ。ゝ

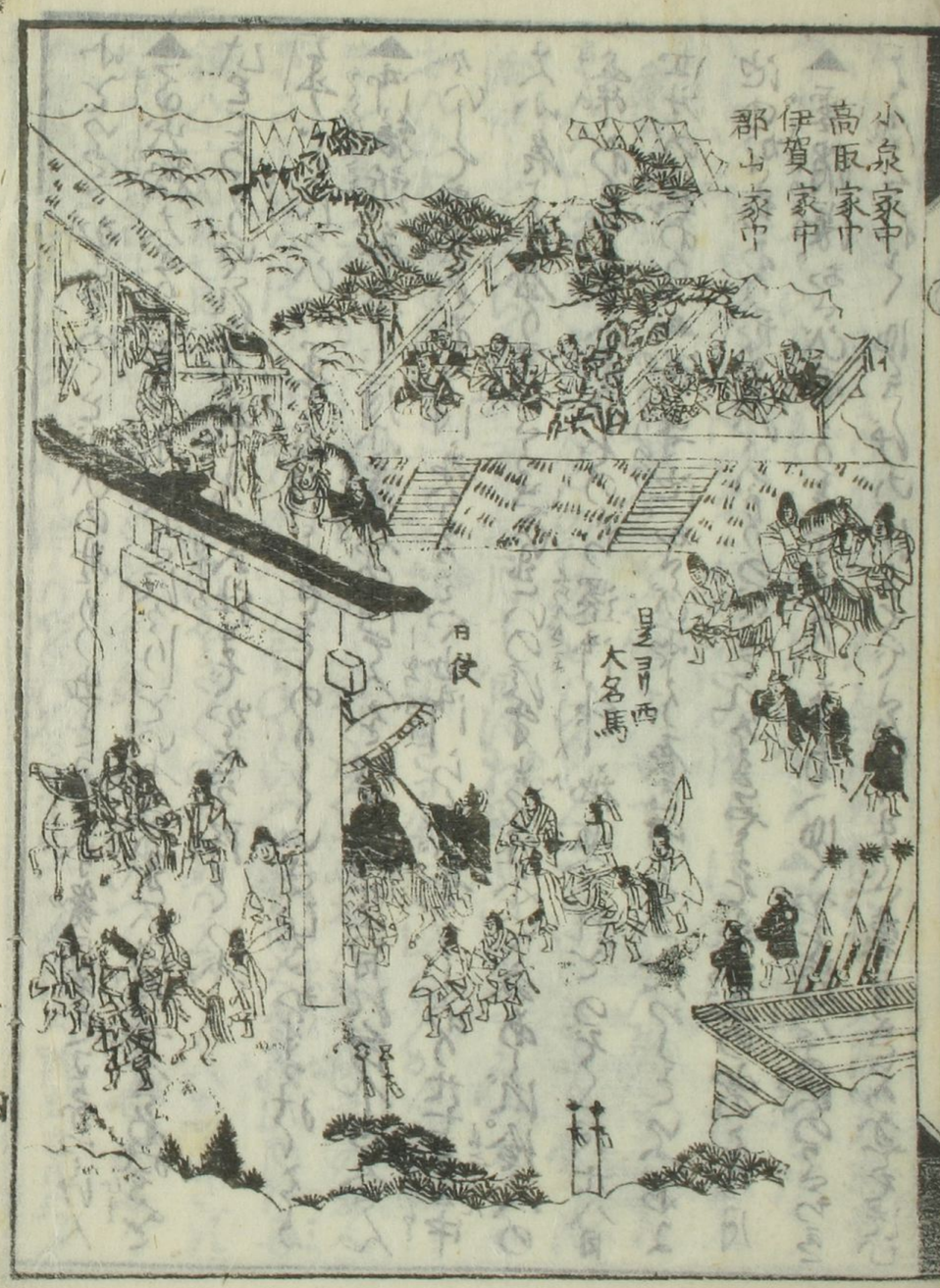

福寺南大門
コンハル
ガクヤ


新飯圖
南都興

清宮内裏類十年こう安永三年を九百六年に当る▲左府殿
のうきこひさくらの木のりさきぶづらといふなり▲菩提院おもてだう
ともいふ本尊は阿弥陀如来花のかさのぼしに会ふからこ弘法
一乗院の門宇てうこんさくといふ猪名せでらのこんかんさい月
さんろうしてたびけんごのむ祭といのり一人のごけしきう常法
給仕しのち永和二年三月十八日にわ家ゆいごんは月ろくや
おんの松のあさにかさご七日と絵さくひきこうきこしこうかん
さと。猿さわりがさに霊仏さうろ。ろくろくやおん梵釋寺のあん
きさ月あるぼりがのあり。せふナ三がひとしよ▲春日大音楽は四に毎
年十月九七日はさるまいのせの月きさくのことあり。ろくさに
ちらくやる祭のあ長ととあり。てをよ海のつきいきうせにあり
▲庵花谷。大き長のあわ池ようがい花ことしふく▲花火師。ことりある

わとりさ。かとりのくとぶひの形りの出とりんよ今餐日ろそ日ろかつけん
▲る出橋。たきりわより糸のかさにくりしとりあさ出いの時ゆきあれとと
ひとところうりさにうり芸より実社まぞかとう所とりん
年ごとにたひの墓ぬ引ごもくのくいさひるかすづけくそう
▲和泉旅所。毎年十月ふ墓糸のけぞんを。て日九日に公人の人さん
ろいしてやぞあり日。ろちこうや出所らんびきうーあり九七日玉中
大ふ長より原りろいるさ。ふいこいの法寺ろ長ふいこみあ。ぜ。冷人の
森あり。ぞりまんあり。ぞのち還御神社ゆこられとのぞく。月九八日
四社の祭あり。▲所守池。あさびあやう長巳のさきだいとしあよ
池のかくちあり。なとふく。ろりのかこれ人まそくをふ三条の出ろ月
▲雲消澤。あさびあうまきすだう糸ものゆくわそ紀乃さ沢のさちこ
ようかくれく。ゆきげの沢よそでられくまさ。裏ろきろかそそそ


御奉行
御奉行馬
春日若宮御祭礼
仕丁赤衣殺人
戸上殺人
柏手殺人


小泉家中
高取家中
伊賀家中
郡山家中
月使
日光西大名馬

▲京道。うづまさ川といふ川とふ大明神創よりうつりゆへ西へ号さう。
ねうとを石つ橋といふ石ちそこゝ也るとせんどの橋といふ。是ちう神社かへ
三ちあり ひだりの。西之宮北殿。東侯義の宮。上の宮。瓦の宮。新造の
宮なり。是と五ツの宮といふ。鳥羽殿 法住寺殿 まへ月さんろ じて天下泰平國
土安全の御祈願あり。その外屋敷。これとうやくさと。右京道▲東寺殿
こゝ弘法のりあるとのゝさと。前ろくて五位橋あり。十三間と橋こゝへ
ちそこくもとゝ神の門級くそなた。二の条殿。三条殿。西ちあり
北条殿 あれもうゆへ方の社く。▲祇園社。潔濁清地蔵神ゝ
神ぞんの石ちうた幣あり。これもそこゝひ月を清め社参するゝ
▲神垣殿。たゝひどの社の条のかさといふ。神ぎこのりれ下繋ハ
ちうゝきて祇園かどのてふかとう舟くて。右京之ニちゝあり。
右の方ゆへ着到殿。もう参りの勅使つきもう公殿人ふと参詣よ

のせゝるとなり。たりとゆへ品の宮ちう。ひりゝへちのえ分候ゝ行れば半ちう。
それ品ちまそそのちう号藤の左右のもいちのう 板よ社とつゝ品さてかの
あらのさかりと西りして。ゆくゝ北とゝ之ゝ八つゝ品ゝも分せよ西ちの
ちうのえ分のまさうげ ▲向寺。西ハ三ツ門あり。南ハ愛宕門。中ハ清正門。
西ハ門倉門 ▲中洲川。ハの門とゆて中りかゝくゝ北川とゝ之ゝ
や清きかゝれゝこそ。てゝもまる神の西まへよ ▲直會殿。ちうけハゝと
御やゝゝ。ちう八幡宮といふ。ゝ社ちうゝゝ。神楽所あり ▲金剛寺。ちう社。伊勢尊。ちう門
たてゝちうゝゝ。神楽所。
と入てたゝハのゆちゝ ▲椿寺社。三見宮御命 稲荷明神 大山上昆神
佐軍神 田心姫 湍津明神 大物主命 栗幸社 火明命 八
雷神 いゝ。ちうもゝ大ゝやとてんのゝ。心落ふ社二社有。南西向ハ
たちちゝとの社。やの方ひちいちん 石人 主計 風神社 立田ゝ神 大ゝ清殿

いねのの方南面。岩室明神 明神大炎法殿ゑひのしさるの方
▲春日大宮四所。一のは殿さけいうつらせおとと。二のは殿いとやねのそる。この
はは殿あきのこや稲の宮にの殿殿ひのかくんかな。二のいらう門南面は殿約せう
とく天皇のはうぢんさけいうん一年十月高市郡の人阿弘夢行食
乙那丸。安永二年と九丁ふ九年にある。おもハに明三人合をかゝゆう三年九
月に中臣秀基ゑ一ぬそそうりんと面そのちふ。清和天皇でゝ白ん
え年十月九日かのくさるの歌でぬそ。まい年二月十二月辰の日
うり氏の日さそおとゑ。申の日ちゝしたちきくのつのわりこんと略と
貞観元年分安永二年と九百廿七年になる▲神護寺大きやた
の方。西の向の社なり▲青柳。辛柳。宗業。ちんこうよう
面の方のおとゝ▲南〻一ういらゝん日はえ。赤童子れ。永仁の年
如意石はえあり。康保元年かゑちぎりるたあかあきける。花任万

社のそゝひ大えんりゃ一ぶおそれ。つきるあひのとくにのりさそ▲布生
橋。ふのいやきの面のそゝとふ春日古記ありがさややのそゝとちち
ゝとうたむけのかゝゝきくそゝうまとゝ▲義之宮院小社一臺子
明神。ぶゝゝうのそゝうり面東ゑ▲南宮明神▲六王明神。ゝうう
くやごてんのふのかゝり▲うゝうくや所天押雲命。大明神ゝうさふ
ようりあひて式百廿六年め一條深の上宮長保年三月二日
はゝ宮ゝ中臣光忠ゝうくへゝ二のはそんへうゝ安永
三年と七百七十年になる。はてのゝ百二十年め宗徳の人の
はうゝ長兼年二月廿七日別社かせんゝうく極ん保延二年
九月十七日にさのはいそでゝり。そのゝ寛正年中うり十一月九七
日かなる。門ゐんふ小社のゝ。ゝゝ通合神。面ハまゝ力雄神。そゝじて
ゝうくくやのは神ハゝ人ね一家の秘法ゝり。神ぜんそ毎年二月

春日社

若宮社
七

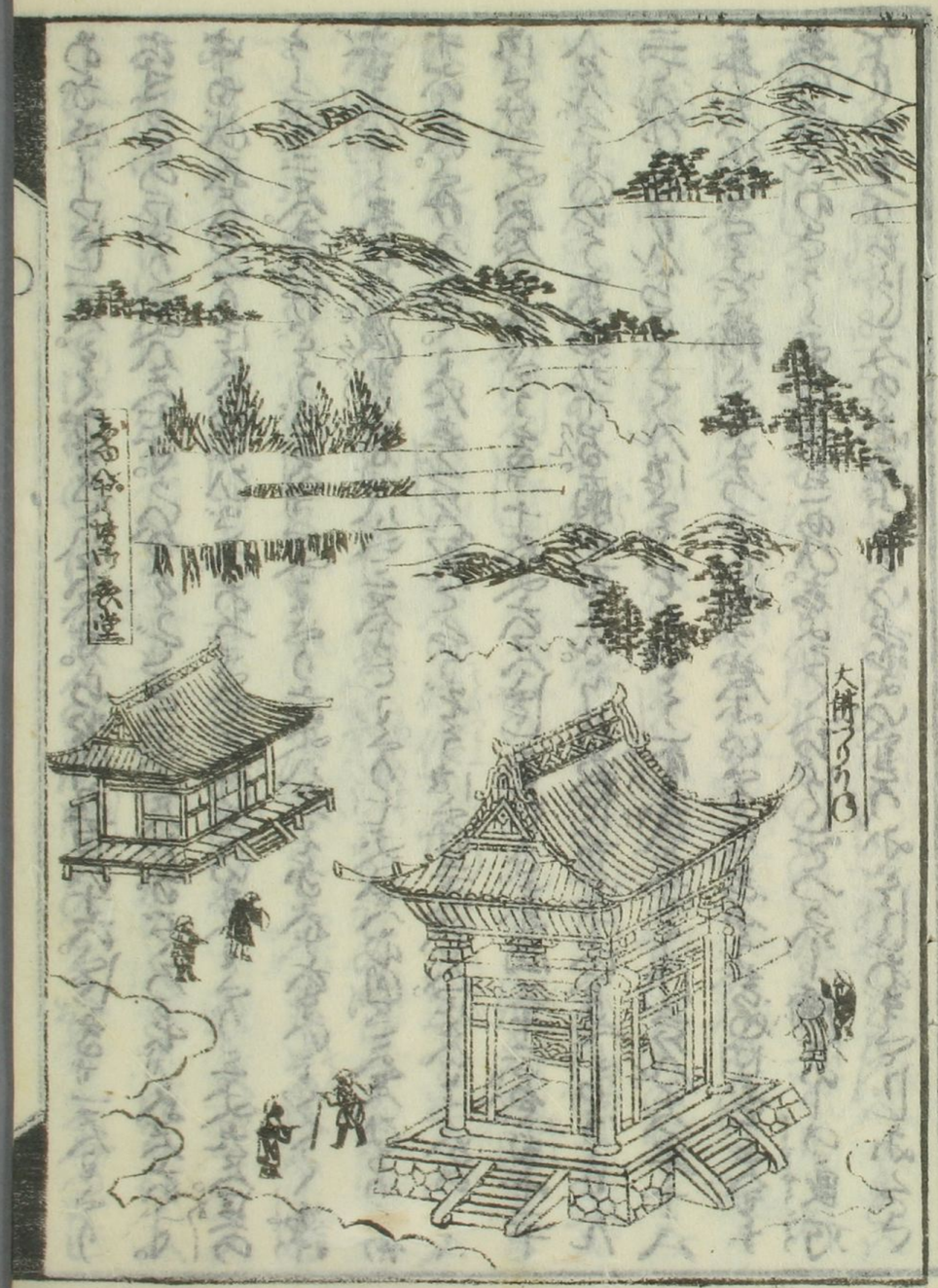
たてまつれり。はるかのかぐらは、ふるき所のかたちなり。こゝに
こゝに▲三千社神日本鑑に、三千社神謙信神社に▲九良彩明神。三千
八社の内のこゝに有りしなるべし。▲糸魚川ちかき奥く▲泊澤社日蓮神。八十猫神。大盛姫
神。瓶洋姫神。▲横市社。横屋社神大こや。南門西の山にいたりまして
高山の北にあり。青瀧まち流れ橋。中間。諏訪澤橋。ちごく谷。春日亮
[illegible]のこゝにて[illegible]と[illegible]を[illegible]
[illegible]
▲安藤屋この屋小波向の法を[illegible]
門とひらきたるとなり。▲水無社。[illegible]
姫。南海神。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]

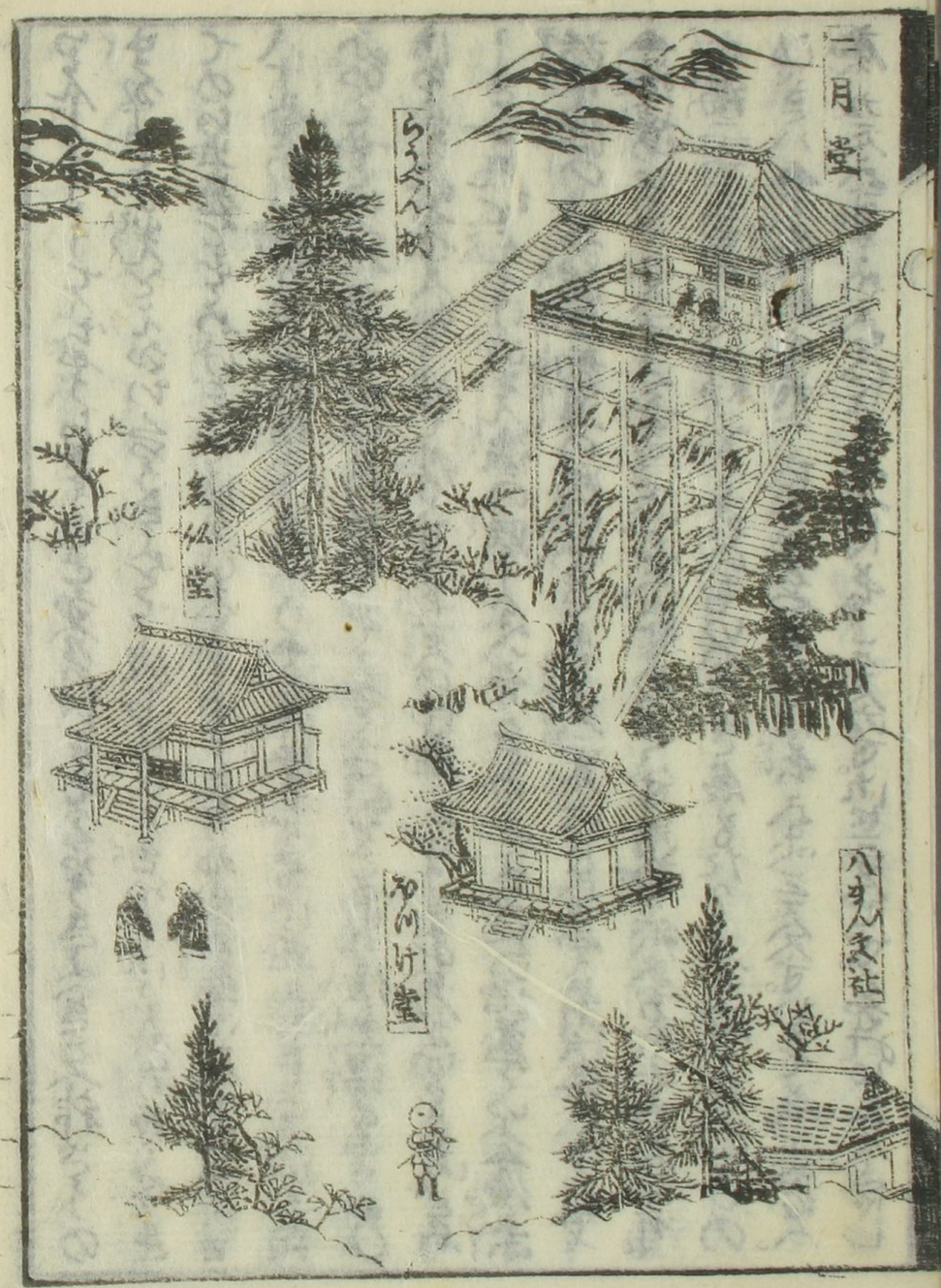
きのくんたいまちよりはじめとなり。[illegible]
神[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
武子百十石[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

▲法華堂羅漢院金剛寺世系こと二月堂しのぶ天平天長元年良
弁僧正ゆてこんつとえ法ふ有余年にいたりていさゝか水火ふの難なし
中ごろわ宝蔵寺紀西寺ゆ三月堂に移ふ良弁僧正の門徒聖武
天皇勅ゆて紀ゆ三月堂ふ移ふ聖武の御願ふ法華経ふ
の表装ふ錦帛ふ用ふ法王ふ師ふ動明王ふ動操僧正の門徒ふ
のまさ人ふ用ふ無ふ弁大悪菩薩自撰文の
天人ゆて七十のれかをゆて七尊堂に移ふ
当寺厳経と遷ゆ邑ふ無ふ
紀ゆ西の帝廟威のあゆ法ふ良弁僧正ふ動ゆて今ふ州十六ふの尾憲
舎那のそる僧と称ふ初て大仏殿と建ふ
聖護法護ふ家の勝海ふ後戸等の
無住ふの霊験ふ勝ふ天慶年中東の門乱の時ふ僧

大ふる輝と変化ふ拘門とふ法ふ異物ふ
故ふ世のく蜂の山寺と称ふて信仰ふ
白河院ふ順礼記等ふ
三月十日ふ中和尚ふ法寺のくまうけ
以ふ十五人のけらいとふ
おゆて法とふ仲ふ
どんふ
めぐゝとふ
そかへゆきと滅ふ
さて紀ふ
らくふ
ゆ三月朔日ふ十二日ふ法ふ

ゆるさるゝ。靈驗あらたなりとぞうかうけしかば。紙法のゝうどわたくし勝定
に奉。安永三年とし九月十七日。本堂ならびに客殿大七年二月十七日。本堂同陣
出火。一時に焼失。ゆへに再興願出し。▲遠妻大
明神堂のわの方に。▲飯食大明神堂。▲兎子妙神堂。▲他食堂
の西東にあり。▲閻魔堂。この外にいとゝ養ておかう明神てせんかてたらかう
はそう寄ゐてまるくさしよ。まろしわかそ。滅罪四二の極ふかふ器のはう
さび傍のう本は。三つの仏かいてくまなく耳白ゆ。ゆとてこゝてわる弁
とし。▲稲荷宮あり。弁ゐ本の方にあり。▲三昧堂世よ。月堂といふそのたゝ墓
公方様ゆ代くしたかゝあり。法安え寄ゐこと。仏法師地蔵菩薩の造ゐの堂。復換
一。ゆゑに再興。▲良弁坊ゆうべ。傍ゆ。持流天ゆ。ゆゑ。ゆ。ゆ。三年
ひ不ゆうえ寄ゐ。ゆ。ゆ。ゆ


大佛殿


二月堂
らうざんぶつ
八幡宮社

わかさ一つ二人。そくがくさ八寸八分。ら所九百六十六ぢ。きせ一人。ようす
たすぐさのつよ一丈八尺七寸。ういかたちでごろ。ちり八尺六寸。
中わびあるくわ。てに八尺。ひざのわさ七尺。ひざのまたうさ三尺九寸。ほの
うら一丈三尺。まんけどうさ。ひ一丈。そうり高八尺。かみ。ながいとくく。清
ぎまんぞ一丈わり。後光えんり八寸。こえ八尺。四方三尺八寸。ひろ仏
十六ぢ。みは八尺。ちたまろ。ちんかんていうぞうは三尺。ほ八尺。ちかのく
ぢみ三寸。ぞく。ぢうこう。ぞく十寸。六尺八ぢ。南ひきこ。東面三十二ぢ。西ひ三十
八ぢ。ぢうのいう。東面九十ぢ。南ひ百ぢ。西ひ百七十ぢ。ちうりん
二てんびやりんらてんれぞうぞうのこう。雪武天。ちうれ。ぞんぞ。天平十八
年。大仏ぞうと。ぞうてまつると。七ぞ。ぞふいうとおもうまつりぞと。天ちう
ぞい。ぞんわさう一ぞちげき。二ぞひ。ぞようとく。ちりし。てつ八一。ぞりりの良巧
とりあるてぞ。ちりしみのく。ぞ。ぞんぞ。ぞいまつ。ぞ。ぞしふさ

ひろ。そは中ぞ人のきどうありてぞのちりくとあるとりぞ八。ままぞ八
帳のちりしあり。十ぞ。ぞのそ人ようとと。ぞ。ちるいのしの良ぞとりとあ
さりところ。ぞ。ぞ。ぞ

ろのげんじさんをびらう西とさうてさうぬをあとにたとそ北又西の明神
とおもあるを。大仏でんさう西のあ[illegible]ちこ[illegible]ちこ[illegible]ちこ[illegible]ちこ[illegible]ちこ[illegible]
こさうを又百人のわ〜かんをびそ[illegible]かちたんでやうのかさねをげんじさんじかりちんん
ぐんじんのうろの西をびらうあ[illegible]さそ[illegible]のあ[illegible]そ[illegible]ふ[illegible]とそ[illegible]百余西の
明神おあるを。今はをこいぐんおろとかり。ゆ[illegible]をかさうを大仏をうのをじしか
ちこでうを西ひ。ひ〜ちをのいくぐんてんぐくんをふをんをさうをのをべ〜。
ゆがりくいわをちてだしゆせうをふあるべ〜とをさいわりしまを。明をあう
ぎびをうをとせんぐらしとて二百人のをうかをびよちぶはんをうはの二百を
ゆ[illegible]ぶの西をあたをのはつをし〜かをけをとそのをすちゆをあ西ぶ十ぐをたをし〜て
ゆをのりて朱ぐ西。をらり人ゆ西流ゆをとをて[illegible]をの[illegible]をて祝をを[illegible]
西。縁記加地羅備をとをてちをにかひわりてりゆのをらかゆをををを
旧

契沙のをあうろれをまうをしてをんゆをちをぶををうをゆ

天平勝宝元年閏月九日大仏のかのぐんをう西をの傷
西の傷海師元興寺つをうををををうをををを

東大寺大佛殿
内目録
十四

がんわり。そ後ふんきう六年三月十二日あり。だし無ぶんべつ者ごん
悟心院憲覺呪師法橋寿賀ぎうこん徳院法眼。そのかの高僧まそこと。
天平のあらたなる。行基菩薩十二人僧と並べて大仏をこしらへ。安永
三年乙卯八百八十年にあり。永ろく十年十月十日松永だんをひきうけて大ぶつ
でんとをきわらびせり。安永三年乙卯百七十年にあり。後のそうは大きく大人。
ひろさ東西に十九ろ。南北に十五ろ。高さ五十ろ。大仏殿の西にあり。▲真言宗大仏殿
明神。おらべん無。とあり。大仏殿西にあり。小社なり。▲安
ぎやうしきさうのんとうけいせん大仏殿にたちあり。
日又奉厚に月二日八日まで。とのそなわり。それ仏さうあるふくえ
めひえん孫八年三月八日より四月八日まで。れいめんくやうあり。月一年に月九
又月ばんらいそんまりまそびれと入ようまつりして。安永六巳丑年
三月廿日より四月八日まで。華くやうあり。まきくめとまつりはじまる。

寛永二乙酉年七月十日大仏殿ぶんとんぶんそうげ
こうけい敬ゆうこ伝ふうあり。▲仏殿ぶんあ
きぶん稲ぶんあり。▲寺ぶん者ようあ
ぶ者のあり。▲じめのいだう寺ぶんとうけいこのの
のかべんのつちとうりていさめあり。らぶんたぶ川西の方▲ぶんぶんあん
大阪のぶぶこうちぶぶ堂小野たかひしの池ぶんひあ三蓮のかりなふ
名所多あり。後法ぶ行基寺後よ。あ一ゆとの石あり。▲東南あん
昔八宗法ぶる所とぶあ。二ぶくぶたくぶんの池あり。今ぶとうあ
ぶ美ぶ二人とうかんあんけぶうあいあり。とうあうだんぶんつ。
あうとかやうちうやぶんぶ。ぶうぶと▲南大門二ぶうあり。月安双
なり。天平年中ぶうぶとうぶ。宝寺川吉城川ともいふ。南大門めうあと
かぶる川ぶとして。▲氷室社中入ぶげのいかぶときの大神。東山神。西

ゑ神なり▲掘子神高あんといふひさるこもぢんそうぐ川のほとり
▲東の橋みどり池の西ちいさ家そうしこれうろといふ八家　おもとうる
へあもさ今ど紀とあのわとこそあ〜也東のじし▲雲生坂ところきの橋よ
かのかしはさいさく八家　持ちあのこ紀ぬにきよくりの坂ところきしかいなくこ
見へのこうぐじじセどうがーんこんりへのうろてよし▲興福寺東のたりがへてけし
ちの心定丁家ちりかりさうぐ高きとう二万二千五百十九石余ちりひとりうかん
はんーめ天ーめういんはんせきこ天家のいんけ。ぐうーーこ百十九人余▲記稼殿
山そんいかのこさまの年正月百ちう二千かうこをかいろ。東家堂おとこあり。
か今ゑ八今と橋ちのこあり。た（のゑ）れ歌の四ぎざそうりふ九さに白ひ山るかゑ
▲食堂などんゑ中也今んとこ也天王のざりわり来て十二直ゑ人うけんさく
二ぢさうわり法海ゑのはこんつう。ま人ゑりの紀ぬかをどのこふいう人ぬ西ゑそきへ日歌
と紀ひさる西。和泉年中ぢざうつうへ。ほうろ小竜敬とふ歌とうゑ西。

▲東金堂ぞどんゑ中也　脱土日台うぐ川台うひさう今紀。ぢんどん
たりのゑ中に天王十二神ーまを作来のゑ中ゑりめ。神亀三年七月元正
天今ゑれ中ふにあり。聖武天今ゑれこんつう。安永三年ちふに七八年にある。
ぢ堂のしろ江今ゑ初の釈迦けうーーんゑりうぐうぐまと歌迦今
八年十月ちんいこくがこうげる市茂波新医王の仏宇賀神ーーのこれゑ
さる法の池ゑわりゑ。又板仏の十二神八ゑ仏法大阿仏大ぢどんわり▲又堂塔
東ゑやしかいやう西八のぎ南ゑちゑ西ゑ。ちゑ天ちんゑ。天今　武年
正月そうつうこうゑ十八文ちんゑ安永三年ちふ四十文年にある▲　月日宮
こうーーんへてこけのりにありーーどい西ゑうーーまに▲大湯屋今ゑ人なよあり
今日池のぢう永久年に残ーー安永三年ちふ百八十八年にある▲弁才天
たりの方に小社あり▲中門ちんぐうつうた十二重ゑわりこうた立やちゑーーん
三ちいこわり▲中金堂文ちいのちゑうゑ今ゑ西ぐこうゑ。ぢんいゑ。ゑ

ぞうのにがさみ所に天王ぞう。ざの名のりんやうはそざの人数ごとにしゅひ
かへのこんうとどめをじかなさうのをりじんらうひとそえ。丈六いちやうのざうと
ゆ〜〜〜つゆよこ中ふして金銀と対ふ。天竺ぞう八年かまうう発ゆひ
てのち四十二年め四大じん西ゆん法海ござうつまう 和銅三年くゆう。七寶
ちゆうごんのさ記だらゆきさやふゆうらくゆくりとかやとこ永三年ごん
和六年又年になる。▲法堂丈六いはござのこまる。にてまをざう。文殊ゆいま居菩
五人分。ぞ器の大じんさろいまう。ひちまうの女かじひょ色みまじん無のぼるめふ。
三人年七年にごうつまう。永三年ごんさ子に千年になるゆいまきもしまうに
紀りるく。ひゆんしゆうかんまよりうんびゆうまうふくいなきれ今とりざりとりんさ
まひりる時百海の法門しいふゆまきゆいまきやとりりてまきた問狭ふ
とゆふおりぞ見とりくゆまゆ浴しゆんとヤ山ふござく高
をいまさとゆまきおハ〜ざるて法大じんのけ安ゆひゆとを世ゆ大じんぞくゆひ天ふ

にぞきゆ〜ゆふ和銅七年にさんのこうゆ興法せ〜ゆを。今にこんぞ▲東ゆ鐘楼
西ゆ法楼。東室。西室。小室。長ゆこうぞく流法ひ〜ゆ別院ゆこ河ひ室
小院。ゆいまこ云ふ室。そのまのおびにきこ天ふ今にこんあり。▲小房
堂。かぞんだいこ〜ゆ。ゆ花ゆひ〜ゆくぜ天ん山天王のぞうのえ明えゆ乃
ゆ帝たんうのこのけこあり。養老ふ年八月ふ山てんのうゆ。安永二年ゆ九百ふ年
に年になる▲西今堂。中ぞんゆ丈六のあるゆ十ぜ子。たうゆ西ゆんてのこんゆん
ゆふゆつんこんゆん。紫師。ゆんでんたゆ中ぞう。ゆざう。右ゆ十ゆんこんゆん
ゆうつまうこんとんこ室ふうこんぞん。てんつまう八部下ざゆ天龍ふゆゆまう龍
ゆ西ゆ法華ゆこんゆ。ゆうぞうびこ川らこ〜ゆ。ゆ山ゆこ〜ゆ。ゆ山ゆこ〜ゆ
ゆ〜ふ法大師さく。ゆ孫ゆんゆ。ゆ夢のこんゆんゆ。ゆ堂ゆ光明ゆうがこゆ
こうたちぞふのきこ。ゆこう〜ゆうびゆのけこあるゆこ天平六年ゆ正月十日ゆ造
ゆこうこゆう。安永三年ゆこ子ゆ二十七年になる。ゆそんざうのらんしゆうゆ

てんらくけんぞう國の王の宸こぞんのらんかんとちがはんとちうひめよ。
ゆゑよ日本國光明皇后こそ大ぞんのらんかんとつひあふゆゑさもて
ゐんんとうおんあくもおけまへ仏師とめしのそだうれーうえべーさいうく
とうけ。日本へうこうれうとそうもとそのけうらうがうけんちさいあ。
あづさうとたるべーとそのうちもそうのごうとさざみ。こけんのまとへんん
とせーよ間のあいざうらうめうとどんかちあくまんらうのまがてくひくく
ぐうといまごとこのうう。えぞーのうちのまを稀んゆ者所のらんかんいもあ
らうこいふ俗かそさうの面ちさの池とすぐるさてまあらうこうどとあと。
まさるのうきけそれひらんかんれのゆおうりまそ。うくもうまくあひもう。
前えへ門りはすへおきえ孔とりかーーあんちの堂とさざあまるみうこえ孔あ
へどぞ。れ西金堂へうれ一番せんとりまよかろうくとらせゆ。まそしたまざこき
きへ仏なうろ。れ堂前こ流流れ。らげんりへとあづうり十二てうーーあり。

十八

▲蘭圓堂八角宝形丈六の三間八ぴふうけんさくのらんかんたりのかさ
にそうのうへとかけさせあぶかーひるにえ王のざうわり。そしてそんざうハ
ぞ長えーーへうちまろのこんうう。堂ハさ坊のかあハ大政大どんあつぐこう
れふとーーせんうのころざとどげんあふ弘仁に年ざうつうなり。
安永三年を九百卒十三年ふる。六祖師はあへありかべ板祖師ゆけ長
も仏堂うておとかりる堂のまりとうろうわりひめいいまる飛大師の他とそ
▲聖天宮一名主社大きあるる石ふいあり。えんりやーーこうの石といふ三きの
塔ふひたひーくくとーーー▲薬師寺もえ。さうの天のうこうれ仏行年中よ
天の川へんぞへえさんろう。かんあんざうこうふうのきびいといのり如ふ嘉う
ぞんぞ妖神ぞんぞ。ゆ法山ゆよふふんぞ。ゆ法山ゆよふふんぞ
のゆーろ。頂る式万六千計百三十六石七斗余内式万式千十九石八斗余八
こうぞやしる所三千百八石九斗余八春日の社や所神を社所中ゆ面ゆ

六百五十一石八斗余八孫宜中に賜ある春日の中ろ八北事あるにれ
さうあいつあう武方石いづる▲おもくどもろひえこうのきさき
ぜん帰くらうごうおひきんだうのおまう。うんしつとあへ毎月ごとひ
へあつごあるちくらごうこれ〳〵かのゆやに高つぎをうありてかくけのく
るれ。ひつくらへびやうれのてさうてくあひ。ひへんるをかんかうしおあ高くゆゆ〳〵いまこの
しつとおあ高しとあつけんへ今▲般若寺人皇二十六代聖武天こう
天平七年に法ちんあやこいまこあれうあ高ぶ。ひ高ごとい〳〵ひ堂と立
伽藍とあ高丈六のゆんしゆ大士のさうときごこん堂ふあれ。十三級
のつ仏さうるサ丈六塑基三丈八尺ひつて。おのくこそでこれ仏ありちけ木の
きあうとおこあるえんん等のえんしとんでのけみんんふや法一紀。ひそうれおうあゆ
▲天長書はけいこ天宝のれうき帝新みごうつう。えぬ天宝のれうき八西

うつあふぐらへふまの塔とでしこうすれ法ぎようんあんごうあり。のあ〳〵へ
六所法方のか〳〵ん与ぐらなもまう平石ちんでんきうこ▲新薬師寺
文新薬師寺八聖武皇帝勅願よりあれと仏基がさ利再興の西こ
昔阿薬師ちと号して秘仏長三尺余の薬師い法基ちかち
聖徳太子の作なり天平十七て国の秋光明
皇后眼疾を患させあひて玉鬘の霊験ありかみさ也
新ひ〳〵六月速こ平癒あうそ時ふ薬がうつ金ぢ〳〵い金新こ薬
師丈六の仏像を造ぞやしおいのな仏の薬師如来ごこ山時寺号を改わ
あひて新薬師寺と勅願と下しあへ則霊験日こ〳〵ふるとい墓
故へ仏そるの表服殊こ大ふるへ宮殿の病服速こ平癒と称
ふ亀徳ちりむ〳〵の番薬師ふ今にいろ秘仏そはう
こ法ちの伽藍本尊の縁起古ことへ〳〵ふ安に暗ふるのも

▲佐保山眉間寺 文殊山八人皇子代聖武皇帝の御宇創建
所行滝殿の風景かうこう大皇寺文殊寺八殿中堂庫院門山保山鎮
の景況かくのごとき毎公藤原の居宮の所造の勅諚ありて仏堂を造
営し中堂を所旅陀地蔵八仏釈迦如来おのく
行基菩薩作彫刻之初跡今寺と号ける仏皇帝出山より門跡遠
見宣旨故眺望寺と勅願之後長寛年中村上天皇門宮
時霊の示る化人現ず眉間より光明を放事実時分有て仏法其
縁と舎利沈殿あり仏由来と奏聞ある帝奇特の事厳
感ありて眉間放光の縁相応ん眉間寺と勅額を賜八聖文
皇帝八紙書の化身なりといふの霊を祈るべしと
霊徳不抜なる四聖の幽霊ハ中陵かも
ど明神宣旨行基菩薩門徒心良辨信正次

のごとく文殊普賢弥勒仏の三尊顕て四聖同時出世
仏法ハ洪基実ハ霊験ハ事ハ有ること
八百年来建物ハ貴塔新宮堂等おのく又六百
年ハ縁起ハ縁の霊山感の霊ハ安八年縁起図

ぐそく一ゆ えんすみ
さけ こ糸ハかり のうくるまきさし
海んぢう 法かくなよ
うちは ちんしゆ ハかくなる
ハ仁の糸 西大寺 四郎 小うくな
めいぶ川 ちうしんしうん

寶暦四甲戌年 南都大佛西門前
萬延二辛酉正月吉日改 繪圖屋庄八版